寛政十二年

五倫ふ具毒解藥　松本秀持著
　　新川定信校　三冊

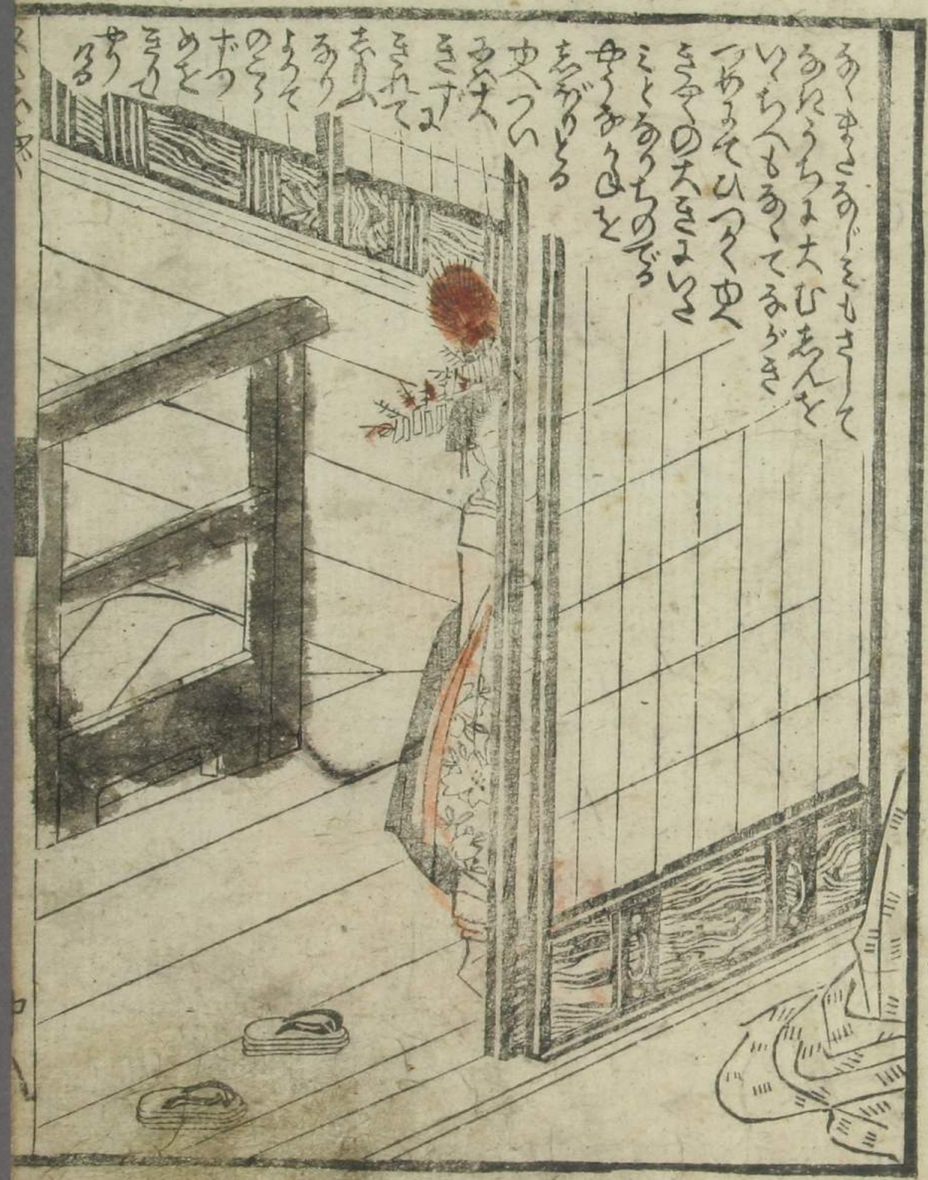
へ13
2946
178

夫外邪易合貧の病乃内傷雜治寒熱
温涼を有る君臣使ふも出者の己頼ハ親
の勤當人参とゝ丸ひ當帰の寄戸ゝ乳釜沈芎
犀角一両もちゝ雅病もくの発見ハ肝心の攝治
補ひ酒色の欲ハ七をかけ稀苓の象毒とも
ちゝ脂氣無憂ハ年を累ねまたい無ちく補の
一氣体不具の毒と解して北向の郭通と共
外の方剤ハ茶袋も免大ものの分部ハ
寛政十甲子

蘭奢亭香保留

178
へ13 2987
特
へ13 2946 178
昭和九年七月一二日 購求

瘂科婦人
神本道外科
方書殺白
茅茹かあれども
非樂戰之子
侵南部邊風掃北
蟲龍寒帰邊麟閣名
内經曰
精神守
放内則
病自
何入とゝ
大丈夫よ
ゝ



ヤレ
ヤレ

ヤレ

ヤレ

豊国画
香保留戯作